

原発事故後のコミュニティ便益の享受と自然環境便益の享受における変化（劣悪化）および今後の生活（就業を含む）再建に関するアンケート

本アンケート調査は、福島第一原発の関連市町村からの避難を継続されている方および帰郷された方のコミュニティ生活享受権（主要な法学者の着眼点）の侵害状況（回復状況）および自然環境享受権（私たち環境経済学者の着眼点）の侵害状況（回復状況）を調査するものです。また避難者および帰郷者において避難前の職業技能（能力）を帰郷後も確保する（向上させる）権利の侵害状況（回復状況）（従来の生活者補償論では見逃されていた実質的な就業者補償という論点の重要性）を明らかにすることを目的としております。さらに、この3つの権利に関連して今後、居住市町村への帰郷あるいは他県の市町村へ移住する可能性についての展望および要望をお聞きし、既存の復旧・復興計画に対し学問的な検討を行うことを目的としております。

また本調査は、日本学術振興会（文部科学省）「委託調査研究『東日本大震災学術調査』環境経済・災害」[調査研究テーマⅠ：東日本大震災・原発事故に伴う被害実態の包括的把握（2012年～2014年）]の一環として、環境経済・政策学会が主体となって実施しております。なお本調査の成果は学会での検討を経て、同振興会（文部科学省）に報告書として提出する予定（2014年度末）であり、現行の原発事故被害の賠償・補償の枠組みの学問的な再検討を必要とします。また、本調査を踏まえて関係研究者は、独自に学術論文を執筆・公表させていただきますと共に、アンケートにご協力いただいた皆さまのお手元に、簡易版の報告書をお届けしたいと存じます。

以下で、お答えいただいた回答につきましては、本調査・研究の目的以外には利用しないことをお約束いたします。また、ご回答者様の氏名欄には本名の代わりにイニシャルやニックネームをご記入いただいても構いませんので、忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。

【ご回答の方法について】

- (1) 空欄の下線部_____または括弧（ ）内に回答をご記入ください。
- (2) □が付されているものは、□に✓（チェック印）を付けてください。

日本学術振興会「委託調査研究『東日本大震災学術調査』環境経済・災害」
研究代表者：植田和弘（京都大学）

アンケート調査代表者
大森正之（明治大学）、松野裕（明治大学）、伊藤康（千葉商科大学）、
寺尾忠能（アジア経済研究所）、山崎宏樹（明治大学）

I：属性と避難前の状況

1. 回答者の属性：□に✓（チェック印）を付けてください。または地名や文章をご記入ください。

フリガナ：

- (1) 氏名（フリガナ） _____（※イニシャル・ニックネームでも構いません）
- (2) 性別 □①男性 □②女性
- (3) 年齢 □①10代 □②20代 □③30代 □④40代 □⑤50代 □⑥60代 □⑦70代 □⑧80代以上
- (4) 避難前の住所 _____（※市町村までの記入でも可）
- (5) 上記での居住年数 □①0～9年 □②10～19年 □③20～29年 □④30～39年 □⑤40年以上
- (6) 居住地域の避難指示区分 □①帰宅困難区域 □②居住制限区域 □③避難指示解除準備区域
□④旧緊急時避難準備区域 □⑤その他（ ）

2. 回答者の避難前の職業（※現在の職業は後半でお聞きします）：□に✓（チェック印）を付けてください。

- ①農林業 ②水産業 ③他の自営業 ④会社員 ⑤団体職員 ⑥公務員 ⑦年金受給
⑧その他（ ）

3. 家族の氏名・年齢・同居か別居か：□に✓（チェック印）を付けてください。または文字や番号をご記入ください。

（※氏名はイニシャル・ニックネームでも構いません。職業は2.の選択肢からお選びの上、番号をご記入ください。）

3-1. 配偶者 氏名 _____ 職業 _____ 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代 ⑦80代以上

3-2. 子供 (1) 氏名 _____ 職業 _____
性別 ①男性 ②女性 / 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①10代以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上

(2) 氏名 _____ 職業 _____
性別 ①男性 ②女性 / 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①10代以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上

(3) 氏名 _____ 職業 _____
性別 ①男性 ②女性 / 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①10代以下 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代以上

3-3. 両親

(1) 父 氏名 _____ 職業 _____ 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①30代 ②40代 ③50代 ④60代 ⑤70代 ⑥80代以上

(2) 母 氏名 _____ 職業 _____ 同居か別居か ①同居 ②別居
年齢 ①30代 ②40代 ③50代 ④60代 ⑤70代 ⑥80代以上

4. 避難前の居住形態と住居の規模・築年数：□に✓（チェック印）を付けてください。または数字をご記入ください。

(1) 居住形態 ①戸建持家 ②分譲マンション ③戸建借家 ④賃貸マンション ⑤民間アパート
⑥公営住宅 ⑦その他（ ）

(2) 住居の規模・築年数 ①建坪（ ）坪 ②室数（ ）部屋 ③築年数（ ）年

II：現在の住環境・食生活・レジャー・職業・相互扶助などの状況

1. 住環境：□に✓（チェック印）を付けてください。または地名や文章をご記入ください。

1-1. 住民票の所在 ①避難前の居住市町村 ②避難先の市町村

1-2. これまでの避難先の市町村名

①震災後の2011年4月1日時点での避難先（ ）

②第2の避難先（ ） ③第3の避難先（ ）

④第4の避難先（ ）

⑤第5以降の避難先（ ）

※避難を継続されている方のみお答えください。

1-3. 現在の避難先の都道府県名・市町村名 都道府県 () 市町村名 ()

1-4. 現在の避難先での家族構成 (複数チェック可)

- ①配偶者と同居 ②子供1人と同居 ③子供2人と同居 ④子供3人以上と同居 ⑤父と同居
⑥母と同居 ⑦親族と同居 ⑧同居者なし ⑨その他の人と同居 (間柄:)

1-5. 現在の居住形態と住居の規模・築年数

- (1) 現在の住居 ①避難前の住居 ②行政の応急仮設住宅 ③民間借り上げ住宅 (みなし仮設住宅)
④避難地でのみなしではない賃貸住居 ⑤避難地での新築住居 ⑥親族の住居に同居
⑦親族の住居に家族だけで居住
⑧その他 ()

※ (1) で①、③、④、⑤、⑥、⑦とお答えの方のみ以下 (2) (3) にお答えください。

- (2) 居住形態 ①戸建持家 ②分譲マンション ③戸建借家 ④賃貸マンション ⑤民間アパート
⑥公営住宅 ⑦その他 ()

- (3) 住居の規模・築年数 ①建坪 () 坪 ②室数 () 部屋 ③築年数 () 年

1-6. 避難に伴う住環境の変化について最も緊急の改善を必要とする問題点はなんですか。

_____ (自由回答欄)

2. 家族の食環境の変化: に✓ (チェック印) を付けてください。または数字や文章をご記入ください。

2-1. 家族の食事の量と質の変化

- (1) 避難前の食料の年間購入量 ①a 米の購入量 約 _____ kg/年 ①b 米の自給量 約 _____ kg/年
①c 米を贈与された量 約 _____ kg/年
②野菜の購入金額 約 _____ 円/年

- (2) 避難地での食料の年間購入量 ①a 米の購入量 約 _____ kg/年 ①b 米の自給量 約 _____ kg/年
①c 米を贈与された量 約 _____ kg/年
②野菜の購入金額 約 _____ 円/年

- (3) 避難地での米の品質・食味 ①避難前と同一品種・食味向上 ②避難前と同一品種・食味近似
③避難前と同一品種・食味落ち ④避難前と異品種・食味向上
⑤避難前と異品種・食味近似 ⑥避難前と異品種・食味落ち

(4) 避難に伴う食事の変化について最も緊急の改善を必要とする問題点はなんですか。

_____ (自由回答欄)

※現在、帰郷されている方のみお答えください。

- (5) 帰郷地での食料の年間購入量 ①a 米の購入量 約 _____ kg/年 ①b 米の自給量 約 _____ kg/年
①c 米を贈与された量 約 _____ kg/年
②野菜の購入金額 約 _____ 円/年

- (6) 帰郷地での米の品質・食味 ①避難前と同一品種・食味向上 ②避難前と同一品種・食味近似
③避難前と同一品種・食味落ち ④避難前と異品種・食味向上
⑤避難前と異品種・食味近似 ⑥避難前と異品種・食味落ち

3. 家族のレジャーの変化：□に✓（チェック印）を付けてください。または文章をご記入ください。

3-1. 避難後の自然環境を利用するレジャー（キャンプ、山登り、川遊び、山菜取り、キノコ採り、釣り、温泉への小旅行、海水浴など）の変化

(1) 年間の実施・訪問回数の変化

- ①かなり減った ②やや減った ③変化なし ④やや増えた ⑤かなり増えた

(2) 年間費用の変化

- ①かなり減った ②やや減った ③変化なし ④やや増えた ⑤かなり増えた

(3) 以下の自然環境を利用するどのようなレジャーの増減が生活への影響が大きかったか？（複数チェック可）

- ①キャンプ ②山登り ③川遊び ④山菜取り・キノコ採り ⑤釣り
⑥温泉への小旅行 ⑦海水浴 ⑧その他（ _____ ）

(4) 以上の中で最も生活への影響が大きかった上記（3）の項目の番号をお書きください。（ _____ ）

(5) その理由をお書きください。

_____（自由回答欄）

3-2. 避難後の民間・公共施設を利用するレジャー（行楽地や遊園地への小旅行、博物館や美術館めぐり、スポーツ観戦、イベント・コンサートへの参加、商業施設での買い物など）の変化

(1) 年間の利用回数の変化

- ①かなり減った ②やや減った ③変化なし ④やや増えた ⑤かなり増えた

(2) 年間費用の変化

- ①かなり減った ②やや減った ③変化なし ④やや増えた ⑤かなり増えた

(3) 以下の民間・公共施設を利用するどのようなレジャーの増減が生活への影響が大きかったか？

（複数チェック可）

- ①行楽地や遊園地への小旅行 ②博物館や美術館めぐり ③スポーツ観戦
④イベント・コンサートへの参加 ⑤商業施設での買い物 ⑥その他（ _____ ）

4. 回答者の現在の職業について：□に✓（チェック印）を付けてください。または文章をご記入ください。

4-1. 回答者の現在の職業

(1) 避難前後の職業の変化

- ①避難前と同じ職業 ②避難前と異なる職業 ③就業から無職（年金受給者を含む）へ
④年金受給の継続 ⑤その他（ ）

※（1）で①②とお答えの方のみ以下にお答えください。

(2) 現在の業種

- ①農林業 ②水産業 ③他の自営業 ④会社員 ⑤団体職員 ⑥公務員
⑦その他（ ）

※（2）で④⑤とお答えになった方のみお答えください。

(3) 雇用先 ①オフィス ②店舗 ③工場 ④その他（ ）

(4) 雇用形態 ①パートタイム ②フルタイム

(5) 雇用契約期間 ①1年未満 ②1年～3年 ③4年～9年 ④10年以上

4-2. 避難地での公的な職業訓練および人材育成事業への参加状況

(1) 職業訓練および人材育成事業への参加 ①有 ②無

（参加・不参加の理由） _____

※以下（2）（3）（4）（5）は、4-2で「①有」とお答えの場合のみご回答ください。

(2) 参加した職業訓練および人材育成事業

- ①福島県 商工労働部 産業人材育成課が実施している「福島県の産業人材育成」事業
②（独）高齢・障害・求職雇用支援機構が全国的に実施している「震災復興訓練計画」（県内
では福島市、いわき市、会津若松市の職業能力開発促進センターで実施）
③協同組合や民間企業が行っている職業訓練・人材育成事業
④その他の職業訓練・人材育成事業（ ）

（参加の理由） _____

(3) 職業訓練および人材育成事業での研修期間 _____年 月～ _____年 月

(4) 以上の職業訓練および人材育成事業の研修を受けた理由

- ①前職の技能・ノウハウの維持 ②転職のための新規の技能・ノウハウの獲得
③職業訓練を受ける具体的な目的は無かった ④その他（ ）

(5) 職業訓練および人材育成事業により習得した資格の有無 ①有 ②無

※①有を選んだ場合には、具体的な資格名をお書きください。

（ ）（ ）（ ）（ ）

4-3. 避難地での再就職・転職のためのハローワーク（職業の斡旋）の利用 ①有 ②無

（利用した理由） _____

4-4. 避難地で前の職業と関連する企業（親会社・子会社、本店・支店、関連会社、取引先、フランチャイザー、代理店契約先など）、関連する団体（所属協同組合、所属労働組合、自治体など）、関連する個人、に直接雇用されていましたか、あるいは現在も雇用されていますか。

①はい ②いいえ

※以下は、4-4で「①はい」とお答えの場合のみご回答ください。

4-5. それは、どのような関連する企業、関連する団体、関連する個人ですか（複数チェック可）。

①親会社 ②子会社 ③本店 ④支店 ⑤関連会社 ⑥取引先 ⑦フランチャイザー

⑧代理店契約先 ⑨所属協同組合 ⑩所属労働組合 ⑪避難前の居住自治体 ⑫避難地の自治体

⑬個人 ⑭その他（ _____ ）

5. 避難前後の近隣者との相互扶助の変化：に✓（チェック印）を付けてください。または数字をご記入ください。

5-1. 避難前の近隣者との無償の相互扶助について

（1）無償で行っていた相互扶助の種類（複数チェック可）

①子育ての協力 ②介護の協力 ③食料の融通関係 ④自営業での協力関係 [ゆい]

⑤防犯・防災活動の協働 ⑥その他（ _____ ）

（2）無償で行っていた相互扶助の合計頻度

①週4回以上 ②週3～1回程度 ③月3～1回程度 ④半年に6回未満

※現在、避難を継続されている方は、以下5-2、5-3、5-4にお答えください。

また現在、帰郷されている方は、以下5-5、5-6にお答えください。

5-2. 避難地での近隣者との無償の相互扶助について

（1）無償で行っている相互扶助の種類（複数チェック可）

①子育ての協力 ②介護の協力 ③食料の融通関係 ④自営業での協力関係 [ゆい]

⑤防犯・防災活動の協働 ⑥その他（ _____ ）

（2）無償で行っている相互扶助の頻度

①週4回以上 ②週3～1回程度 ③月3～1回程度 ④半年に6回未満

5-3. 2011年4月～2013年12月における避難地から故郷への訪問回数と費用負担（冠婚葬祭を含む）

避難開始から現在までの故郷への訪問回数 約 _____ 回

避難開始から現在までの故郷への訪問の総費用 約 _____ 千円

5-4. 2011年4月～2013年12月における故郷の市町村や町会主催のお祭りに参加した頻度

（1）避難前の参加頻度 ①年4回以上 ②年3回 ③年2回 ④年1回以下

（2）避難地での参加頻度 ①年4回以上 ②年3回 ③年2回 ④年1回以下

※現在、帰郷されている方のみお答えください。

5-5. 帰郷後の近隣者との無償の相互扶助について

(1) 無償で行っている相互扶助の種類 (複数チェック可)

- ①子育ての協力 ②介護の協力 ③食料の融通関係 ④自営業での協力関係 [ゆい]
⑤防犯・防災活動の協働 ⑥その他 ()

(2) 無償で行っている相互扶助の頻度

- ①週4回以上 ②週3~1回程度 ③月3~1回程度 ④半年に6回未満

5-6. 故郷の市町村や町会主催のお祭りに参加した頻度

- (1) 避難前の参加頻度 ①年4回以上 ②年3回 ③年2回 ④年1回 ⑤不参加
(2) 帰郷後の参加頻度 ①年4回以上 ②年3回 ③年2回 ④年1回 ⑤不参加

Ⅲ：今後の生活の再建について

※以下の1. 2. 3. 4.は避難を継続されている方のみお答えください。

1. 希望する帰郷の形態：□に✓ (チェック印) を付けてください。または文章をご記入ください。

- ①元の住居あるいは居住コミュニティ (行政区) への帰郷 ②元の市町村内の近隣コミュニティへの帰郷
③福島県内の元の郡内だが元の市町村以外への帰郷 ④福島県内の元の郡以外への帰郷
⑤県外への移住 ⑥その他 ()

(上記の選択理由) _____ (自由記述欄)

2. どのような形態の復興住宅を希望しますか。：□に✓ (チェック印) を付けてください。または文章をご記入ください。

- ①戸建の分散居住型の復興住宅 ②集合 (マンション) 型の復興住宅
③戸建の団地型の復興住宅 ④復興ニュータウン※1内の戸建の復興住宅
⑤復興ニュータウン内の店舗付き戸建の復興住宅
⑥復興ニュータウン内の農場 (付帯山林の入会権を含む) 付き戸建の復興住宅
⑦復興ニュータウン内の集合 (マンション) 型の復興住宅 ⑧その他

※1：復興ニュータウンは、行政が開発した居住地に学校や福祉施設などが付随して整備された集約型の「仮の町」とします (2013年10月8日付『毎日新聞』のいわき市清水敏男市長の発言より)。

※上で②と⑦の集合 (マンション) 型の復興住宅を選択された方のみご回答ください。

2-1. 行政が提供する戸建ではない復興住宅へ入居するならば、どのような地域であれば納得できますか。

- ①元の住居あるいは居住コミュニティ (行政区) 内の復興住宅
②近隣コミュニティ (元の市町村内) の復興住宅 ③福島県内の元の郡内の復興住宅
④福島県内の元の郡以外の復興住宅 ⑤県外の復興住宅 ⑥その他

(上記の選択理由) _____ (自由記述欄)

※上で①③④⑤⑥を選択された方のみご回答ください。

2-2. 理想的な帰郷のイメージ^{※1}を以下からお選びください（総費用は加害者と行政が負担するものとみなす）。

- ①各世帯がそれぞれ、自由に帰郷先の地域を選んで帰郷する
- ②旧コミュニティ（行政区）に居住していた複数世帯が自発的に任意の集団（近隣者および親族による）を作り、帰郷する
- ③旧コミュニティ（行政区）に居住していた複数世帯が市町村の斡旋で集団を作り、帰郷する
- ④旧町村と類似した規模と生活環境および自然環境を備え、県・市町村の主導で開発された田園都市^{※2}型のニュータウン内の居住区域（付帯する農地や林地などを含む）を各世帯がそれぞれ自由に選択し、帰郷する
- ⑤旧町村と類似した規模と生活環境および自然環境を備え、県・市町村の主導で開発された田園都市型のニュータウン内の居住区域（付帯する農地や林地などを含む）を各世帯が自発的に任意の集団を作り、各集団が自由に選択し、帰郷する
- ⑥旧町村と類似した規模と生活環境および自然環境を備え、県・市町村の主導で開発された田園都市型のニュータウン内の居住区域（付帯する農地や林地などを含む）を各世帯が県・市町村の斡旋で集団を作り、行政と協議し、帰郷する
- ⑦その他の帰郷のイメージを持っている（あなたの理想的な帰郷のイメージをお書きください）
-

※1：いわき市の住民団体「いわきふたば絆の会」による浪江町、双葉町、大熊町、富岡町からの避難者への仮の町に関するアンケート調査によれば、約8割の方が「大規模な生活拠点で暮らすニュータウン型」を希望しています（2012年10月10日付『河北新報』）。また、仮の町の建設を計画しているいわき市の市長清水敏男氏も「学校や福祉施設を伴う集約型（ニュータウン型）」の仮の町の整備を視野に入れていると発言しています（2013年10月8日付『毎日新聞 地方版』）。

※2：田園都市とは、住宅地区、商業地区、工業地区、農業地区、森林地区、（海浜地区）を計画的にゾーニングし、行政主導で県内に開発された都市のことをいいます（1898年にエベネザー・ハワードによって提唱され、イギリスのレッチワースで初めて建設されました。東京の田園調布はそれを模倣して、東急電鉄により開発されています）。

3. 元の県内の市町村に帰郷するまでの許容年数（避難の開始時を起点として）：に✓（チェック印）を付けてください。

- ①3年以内 ②4～10年 ③11～20年 ④21年～30年 ⑤31年以上 ⑥帰郷を断念せざるを得ない

4. 具体的な転居希望先はありますか？：に✓（チェック印）を付けてください。または地名や文章をご記入ください。

- ①ある ②無い

※①あるとお答えの方のみ以下にお答えください。

（1）具体的な希望転居先の都道府県名・市町村名

都道府県（ ）市町村（ ）

（2）上記の希望転居先を選んだ理由_____

※以下は避難を継続されている方と帰郷された方の双方にお聞きいたします。

5. 帰郷後の職業の選択について：□に✓（チェック印）を付けてください。または地名や文章をご記入ください。

□①年金受給の継続 □②年金受給まで無職 □③前職への復帰 □④転職 □⑤その他（ ）

（上記の選択理由） _____

IV：原発事故原因者に対する訴訟の提起について

1. 現在、原発事故原因者（東電や国等）を提訴（訴訟を提起）していますか。□に✓（チェック印）を付けてください。

□①提訴している □②提訴していない □③提訴を考慮中である □④その他（ ）

2. 上で①と答えた方にお聞きいたします。集団訴訟の原告団に参加されていますか。□に✓（チェック印）を付けてください。①、②の両方をチェックすることもできます。

□①参加している □②その他の方法で(個人や事業体として)提訴している

ご回答ありがとうございました。

私たちアンケート実施者へのご意見、ご要望、ご批判などございましたら、ご記入ください。

● ご記入後は、返信用封筒に収めて、速やかにご投函下さい。

【本アンケート調査への問合せ先】

大森正之（明治大学政治経済学部 教授）

住所：〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1 研究棟 809

電話番号：03-3296-2138(直通)

メールアドレス：omori@isc.meiji.ac.jp